世界フェアトレードデーなごや2018コーヒーサミット

に出店のフェアトレードなコーヒー おすすめ一覧

Aoyagi Coffee Factory

東ティモール産マウベシコーヒー生産者組合
フェアトレード&オーガニック
(NPO法人バルシックが栽培から輸出入まで手掛けています)

愛知県日進市竹の山5-3003
TEL:0561-72-5601

BEANS BITOU

トリココーヒー
(フェアトレード×福祉)

愛知県名古屋市中区錦1-13-36
TEL:052-222-2422

SHANTI・SHANTI・COFFEE FARM

Farmers passion ハニー ミディアム

愛知県豊川市東豊町5-22
TEL:0533-65-8653

YMS café

スマトラ島アチェ州ガヨ地区のコピルワックを初めとする希少なコーヒー豆から一般的な物まで。

TEL:052-700-0235
yy4545yy@gmail.com

イトウコーヒー

グァテマラ
(フェアトレード)

愛知県名古屋市東区泉1-7-25
TEL:052-962-3541
フリーダイヤル:0800-100-3541

移動cafe工房ソラモト

ふわふわIce珈琲
(ドリップコーヒーをシェイク)
エスプレッソ珈琲
(イタリア製エスプレッソメーカーによる濃厚な味わい)

愛知県日進市米野木台3丁目1421-106
TEL:090-3838-6788

小川珈琲

有機珈琲フェアトレード
モカブレンド

京都府京都市右京区
西京極北庄境町75番
TEL:0120-077-800

齊藤コーヒー

フェアトレード認証コーヒー
メキシコマヤビニック

愛知県名古屋市西区中小田井三丁目86番地
齊藤コーヒー(株) 担当:三輪
TEL:052-501-0708

坂ノ途中

ラオスの森コーヒー
(フェアトレード×森林保全)
カスカラシロップ
(フェアトレード×未利用資源の活用)

京都府京都市下京区西七条八幡町21番地
TEL:075-200-9773

シーシーエスコーヒー

有機フェアトレードグアテマラのコーヒー豆
有機フェアトレードグアテマラ ワンドリップ
名古屋弁コーヒーバッグ
(有機フェアトレードグアテマラ)

京都府京都市下京区西七条八幡町21番地
TEL:075-200-9773

シサム工房

フェアトレードコーヒー
SISAM COFFEE 深煎り 200g

京都府京都市左京区田中西樋ノ口町94-2
TEL:075-724-5677

椙山女学園大学×LINZARD coffee

LINZARD coffee

愛知県名古屋市千種区星ヶ丘元町17-3
椙山女学園大学 生活科学部 村上研究室
TEL:052-781-1186

スターバックスコーヒー 栄・伏見地区

フェアトレード イタリアン ロースト

愛知県名古屋市中区栄3-6-1
スターバックスコーヒー 栄ラシック店
TEL:052-259-6287

スローコーヒー

カフェインレスコーヒー各種
(デカフェ×オーガニック×フェアトレード)

千葉県松戸市松戸新田24番6-2号
TEL:047-331-5208

桐林館阿下喜美術室

ルワンダフイエマウンテンコーヒー
(生産者支援プログラム参加型コーヒー)

三重県いなべ市北勢町阿下喜
TEL:0594-72-6096

ビスタレイ

雪男スペシャル

三重県三重郡菰野町田光1555

マウンテンコーヒー

グアテマラ サンタエウラリア
(フェアトレード×オーガニック)
エチオピア イルガチェフェ
(フェアトレード×オーガニック)

愛知県名古屋市昭和区台町2-27
TEL:052-853-6711

NPO法人フェアトレード名古屋ネットワーク(FTNN)から

2018年、名古屋市はフェアトレードタウン3年目、更新の年。さらに「みんな」を巻き込んで!

2015年9月に名古屋市が国際フェアトレードタウンに認定されてから今年で3年。ただいま3年目の更新申請中。NPO法人フェアトレード名古屋ネットワーク(FTNN)が中心となり、市のフェアトレードタウン担当(名古屋市環境局)と共に、企業・学校・大学・商店・市民を巻き込んで様々な方向へのフェアトレードの広がり深まりに挑戦した3年間。着実に実績を積み前進しています。認定を得るのも大変な運動でしたが、認定を継続することもまた粘り強い事業です。

私たちのスローガンは「みんなでやろみゃあ!フェアトレード」。「みんなで」というシンプルな言葉ですが、ここが大事。一部の人だけでなく、フェアトレードに「みんなで携わること」を丁寧に紡ぎたい。「フェアトレードタウンなごやシンボルマーク」も市民参加のデザイン公募と投票で誕生。そのシンボルマークを使って「フェアトレードタウン名古屋みゃげ」第1号も発売となりました!

環境デーなごや2017秋のフェアトレードタウンまつり

キルギスの女性たちが名古屋のためにと頑張ってくださった、愛おしい名古屋みやげが誕生!

1つのモノの商品化には、いろんな分野のプロの方々が携わります。そんなみなさんとのコラボで、生産地への優しい想いを詰め込んだ動物ぬいぐるみが、2018年3月に東山動物園(名古屋市)にて販売開始となりました。この商品はJICA(国際協力機構)の一村一品運動の協力を得た中央アジアの国キルギス共和国で作られます。草木染めのフエルトぬいぐるみは一つ一つが村の女性たちの手仕事で丁寧に作られ、生活向上につながります。キルギスと名古屋をつなぐ動物ぬいぐるみは「フェアトレードタウンなごやシンボルマーク使用承認第1号」として名古屋市民に愛される東山動物園のお土産となりました。現在、第2号の商品開発も市民の皆さんと行っています。名古屋市内の観光名所でフェアトレード商品に出会っていただくために。「気がつけば街じゅうがフェアトレード!」を目指して!

キルギス製フエルトぬいぐるみ
1体¥3,900(税抜)東山動植物園園内ズーポケットにて発売中

フェアトレードタウンなごや

「フェアトレードタウンなごや応援マーク」をぜひ皆さんの商品にもご使用ください。
(申請は名古屋市フェアトレードタウン窓口まで)

原田さとみ(FTNN代表理事)

Event

9/15 sat.
環境デーなごや2018
秋のフェアトレードタウンまつり
~ごみ非常事態宣言から20周年 未来へつなぐ協働のバトン~
〔会場〕名古屋テレビ塔下・久屋大通公園
〔主催〕名古屋市
〔協力〕NPO法人フェアトレード名古屋ネットワーク(FTNN)

10/21 sun.
エシカル・デー・なごや2018
白鳥庭園の名古屋まつり "エシカル でいきましょ!"
生物多様性条約COP10開催8周年記念
~地球上の多様な命のつながりを大切に、環境・人・社会に優しく美しく~
〔会場〕白鳥庭園(「名古屋まつり」のため入園無料)
〔主催〕エシカルなごや推進委員会
〔協力〕NPO法人フェアトレード名古屋ネットワーク(FTNN)

11/3 sat.(祝「文化の日」)
フェアトレードコーヒーガーデン
in 名古屋市庁舎 Vol.2
~世界のおいしいフェアトレードコーヒー飲みくらべ~
〔会場〕名古屋市役所本庁舎玄関と屋上
〔主催〕名古屋市
〔協力〕NPO法人フェアトレード名古屋ネットワーク(FTNN)

— 惣sou — 第9号 2018年5月発行 発行:NPO法人フェアトレード名古屋ネットワーク(FTNN) 編集:森本萌子 白木舞美 早川香南

NPO法人フェアトレード名古屋ネットワーク(FTNN)会員募集中! FTNN 検索

年会費(個人正会員¥3000~/団体正会員¥6000~/個人賛助会員¥1000~/団体賛助¥10000~)
名古屋市中区錦3丁目6-15 名古屋テレビ塔1階「エシカル・ベネロープ」内 ホームページ: http://www.ftnn.net E-mail:staff.ftnn@gmail.com

Fair Trade Nagoya Network

惣 sou

モノとココロを考える、フェアトレードタウンなごやのフリーペーパー「惣」

TAKE FREE
第9号
2018年5月発行

知ったら誰かに話したくなる♡
名古屋と"フェアトレードなコーヒー"の関係!

"コーヒー"、そして"フェアトレード" 名古屋と縁の深いふたつを特集しました

「ちょっとお茶する?」。名古屋の人が日常でちょっと落ち着きたいときの魔法の言葉。喫茶店に入り、席についてオーダーをすれば"ささやかなエスケープ"が始まります。

名古屋市は、喫茶店での支出額が全国2位(※)。ひとりで過ごす時間も、友人や恋人と過ごす時間も、行きつけの店で会話を楽しむ時間にも。ブレイクタイムにコーヒーを飲むという人は少なくないはず。

コーヒーといえば、"フェアトレード"というキーワードと関係の深い商品のひとつ。「フェアトレードタウン」に認定され3年目を迎えた名古屋市にとって、とても縁のある嗜好品にちがいない!?

そこで今回の「惣」ではフェアトレードな理念を大切にしているコーヒーについて特集します。大手コーヒーチェーン「スターバックスコーヒー」をはじめ、5社のコーヒー屋さんをインタビュー。そこでみえてきた"名古屋"とは一?

(※)総務省統計局 家計調査結果より

「フェアトレード」とは

開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「貿易のしくみ」をいいます。

「フェアトレードタウン」とは

思いやりの取引「フェアトレード」を街ぐるみで応援する市や町のこと。名古屋市は「NPO法人フェアトレード名古屋ネットワーク(FTNN)」によって2015年、国際フェアトレードタウンに認定されました。現在世界には2000以上ものフェアトレードタウンがあり、日本では 熊本・名古屋・逗子・浜松の4市が認定され、続いて札幌・垂井(岐阜県)・岡山・徳島など日本各地でフェアトレードタウン運動が興っている。
FTタウン運動は、世界とつながっている私たちの暮らしを見つめ直し、地域の絆を深め、地域内の交流の促進や、街のにぎわい創出につながります。

“喫茶文化”の名古屋だからこそ、コーヒーが“フェアトレード”を知る入り口に。

01 スターバックスコーヒー

いつでもどこでも、倫理的に調達された高品質なコーヒーを

街角で手軽にコーヒーをテイクアウトできるのが魅力の「スターバックスコーヒー」。同社が取り扱うコーヒー豆の99%は倫理的に調達されたもの。コーヒー生産者との関係を40年以上かけて築き、持続的に高品質なコーヒーを提供するために、世界中の100万人を超えるコーヒー生産者とともにこれまで取り組んできました。

「C.A.F.E.プラクティス(※)」という独自の調達ガイドラインを導入し、人々や地域環境により良い方法でコーヒーを育てることに努め、またこの他にも米スターバックス社は、2013年度に国際フェアトレード認証コーヒーの購買量が世界最大となりました。

大切に育てられた高品質なコーヒー豆は、豊かな香り、酸味、コク、風味へとなり、私たちがオーダーした1杯のコーヒーが、生産者の経済的支援や産地の自然環境の保護へとつながっていきます。

※C.A.F.E（Coffee And Farmer Equityの略）

コーヒーを飲むだけじゃない!?飲んだ後も続く、各店舗でのエシカルな取り組み

地下鉄名城線「名城公園」駅から歩いてすぐの、「名城公園」入り口にある複合施設「tonarino(トナリノ)」。街の人が集い、交流を生み出す場として誕生したこの施設の1階に「スターバックスコーヒー」名城公園店はあります。

「地域の人々の暮らしがより豊かになるように、世代を越え、人と人とをつなげたい」と想いを語るのは店長の和田さん。「スターバックスコーヒー」では、コミュニティのつながりを大切にし、地域に密着した活動にも積極的に取り組んでいます。

同店で開催しているのは「コーヒーの豆かすリサイクル」。店から出たコーヒーの豆かすは捨てられるのではなく、発酵させて公園の堆肥に生まれ変わります。名城公園内に店舗があるという環境を活かした活動です。

実は店舗ごとに特色のある「スターバックスコーヒー」。いつもと違う視点から見てみると、面白い発見がありそうです。

スターバックスコーヒー 名城公園店
ストアマネージャー：和田直子さん

「2018年6月9日(土)に「After Coffee Journey②」を名城公園で行います。こうばしい香りに包まれながら、一緒にコーヒーの豆かすで堆肥を作ってみませんか？詳細についてなごや環境大学のwebサイトをチェックしてみてくださいね」

スターバックスコーヒー 栄・伏見地区担当
マネージャー：宇野智史さん

栄・伏見地区担当のマネージャーの宇野さんは「フェアトレードタウン名古屋を盛り上げ、エシカルな仲間を増やしたい」と意気込みます。

02 椙山女学園大学×リンザードコーヒー

台湾のコーヒーと名古屋の大学生フェアトレードを通じて交流深める

椙山女学園大学で建築学を専門とする村上教授。「リンザードコーヒー」との交流は、シドニーで行われた村上教授主催のワークショップで、台湾の建築実業家・ケビン・リンさんと出会ったことから始まりました。リンさんの実家は、戦後から台湾に代々続くオーガニックのコーヒー農園。後を継ぎ、農園を運営しています。

「リンザードコーヒー」は名東区「西山商店街」の一角にある、村上教授のゼミ生が運営するフェアトレードセレクトショップで取り扱っています。昨年まで店頭販売していましたが、今年の販売は問い合わせがあった場合のみ送付しているそう。学生は自分たちで作ったオリジナル雑貨に、コーヒーを合わせてギフトセットにするなど創意工夫をこらします。「どうしたら商品の良さが伝わり、購入する人が増えるのか。実際に販売する中でフェアトレードについて考える場になれば」と村上教授は話します。

さらに今、リンさんは台湾のお店でコーヒーと一緒に出すお菓子として、名古屋のお菓子に注目。学生たちと一緒に、ぴったりの名古屋菓子を探しています。「リンザードコーヒー」は、お互いの文化や歴史を知るきっかけとなり、名古屋と台湾を結びつけるものとなりそうです。

純粋に、まっすぐに想いを込めて作られるコーヒー

「働く人みんなに正当な賃金を、そしてほかの農園の人々も満たされた暮らしができるよう、私たちがエシカル・フェアトレード・ビジネスを推進していく存在になりたい」と、リンさんはコーヒー作りに熱い想いを持ちます。

村上教授が「平和を愛し、純粋でまっすぐ」だと言うリンさん一家が作る「リンザードコーヒー」。お茶のように爽やかに香り、すっきりと澄んだ味がするのは“作り手のこころ”が宿っているからかもしれません。

椙山女学園大学：村上心教授

「フェアトレードやエシカルのコンセプトを初めて聞いたとき、私が考える建築学やまちづくりの理念と一緒だ！と深く共感しました」と話す村上教授。「人々の生活や環境を幸せにしていくこと。入り口は違えど、目指すところは同じ。“社会と地球の幸せとは何か”をみつめています」

「地球とのフェアトレード」とは

私たち「フェアトレードタウンなごや」が提唱している理念です。
1）国際間の貿易としてのフェアトレード
2）国内・地域間でのフェアトレード
3）地球の自然に対してのフェアトレード
世界に対しても、地域に対しても、地球に対しても、フェアに。
途上国に対しての「フェアトレード」という言葉を、国内での立場の弱い方々への仕事の創出、地域内の活性化、身近な伝統や自然環境に対してまで、フェアな取引の視野を広げ、

「Big Tent Approach ビッグ・テント・アプローチ」の方法で、街ぐるみで取り組むフェアトレードタウン運動を実践しています。

フェアトレードラベルに限らず多様なフェアトレードのあり方を包み込む「大きなテント」方式を取るということ。
大きなテントの中で、様々な方面で活動する団体や組織がネットワークし、多様性を包括し手をつなぎ、共に成長することを理想とします。
フェアトレードタウン運動は、途上国を含む世界各地に広がり、さらには私たちの足下を見つめ直し、地域に根ざして行動することを推進します。

03 小川珈琲

京都のコーヒー屋さん、生産者を思い“エシカル”へ毎日の一杯を通じて学生からの興味広がる

1952年、京都で創業したコーヒーロースター「小川珈琲」。その歴史の中で「サスティナブルコーヒーやフェアトレードコーヒーに注力し始めたのは2004年からだった」と、小川珈琲・増田隆教さんは話します。「2002年コーヒー豆の国際相場が大幅に下がってしまって…。低価格状況が続けば、生産農家が減ってしまう！将来にわたって美味しいコーヒーを届けたいという想いからでした」。

同社の魅力のひとつは、生産者や自然を守る取り組みをしているコーヒーが、ほぼ全国のスーパーや生協で購入できること。

「最近ではフェアトレードの知識を深めるために会社を訪問したいという学生からの問い合わせがありますよ」と増田さん。個性豊かなコーヒーに身近なお店で出合い、興味を持つ人は増えているのかもしれない。

持続可能な社会を目指す活動を支えるカギは“おいしい”名古屋では好みの味がリピートされる傾向に

2004年ごろまで中部地区の営業を担当していた増田さん。「初めて名古屋で商品を置いていただいたのは『フランテ』八事店。約20年前のことだったと聞いています」。

国際フェアトレード認証コーヒーを含む「小川珈琲店有機珈琲」シリーズは、国内のスーパーマーケットといった小売店で流通しているオーガニックコーナーのうち、7割を占めています。2000年以降、種類を増やしシェアを伸ばしてきました。中部地区では2013年からの5年間で「フェアトレード モカブレンド(粉)」の売り上げは6倍に増えたそう。

「持続可能な社会を目指す活動を実現するには、“消費者に継続的にコーヒーを支持してもらえるか”がカギ。そのためには味がおいしいということがとても重要です」と増田さんは言います。「名古屋の人は味が気にいると、同じ商品を繰り返し購入してくださるという印象です。深煎りで酸味が少ない『バードフレンドリー®ブレンド』は、深い味わいを好む名古屋の人に受け入れていただけるのでは」

小川珈琲：増田隆教さん

「おすすめはアジアで初めて販売を開始した『オランウータンコーヒー』。風味豊かなので、もっと知っていただけたらうれしいです」と増田さん。スマトラオランウータンが生息するインドネシアの森を保護する支援をしている「オランウータンコーヒー」。キャラメルのような甘み、しっかりとしたコクや香りが魅力だそう。店頭で見かけた際は手にとってみては。

コメダ珈琲店

地元・名古屋で地域密着で深く何気ない日常の中でフェアトレードを伝える

赤い布張りのソファ、ベージュの木目のテーブル。老若男女、思い思いの時を過ごしている光景は「コメダ珈琲店」おなじみだ。

いつでも、どこでも変わらない“懐かしさ”が魅力のひとつである同店。フェアトレード認証コーヒー「メキシコマヤビニック」を一部の店舗で商品化して約半年が経った。

「コーヒーをはじめとするカフェメニューの新商品は目新しく、フェアトレードコーヒーの表示を見たお客様がスタッフに『これはなあに？』とおっしゃって。スタッフがどういったコーヒーなのかをお伝えするということがありました」（コメダ珈琲店・清水大樹さん）

さらに「地域密着で深く、社会貢献できれば」と話す清水さん。「いつもご利用いただいているお客様に、ゆっくり美味しいフェアトレードコーヒーを楽しんでいただき、良さを伝えていきたい」と言います。なじみのテーブル席でフェアトレードに出合い、興味をいだく人は増えていくのかもしれない。

コメダ珈琲店：清水大樹さん

シサム工房

国際フェアトレード認証ラベルの取得を目指す。ラベルはなぜ必要？

京都を拠点にフェアトレードファッションや雑貨を取り扱っている「シサム工房」。取り扱っているフィリピン産の「シサムコーヒー」は国際フェアトレード認証ラベル取得の手続きの真っただ中だ。取得できるにはまだ数年かかる見通しだとシサム工房・池澤匡彦さんは言う。

「村ごとにある共同組合ごとに申請書類が必要ですし、チェック項目も多いです。収益や会計についてもすべてチェックが必要です」。

コーヒーの製造に関わるすべての工程で、多くのチェック項目を満たしていることが認証マークの条件。なぜ時間や費用をかけて、取得を目指しているのでしょうか？

「ひとつは信用度が高まり、販売マーケットが広がること」。そして「さらにもうひとつは、生産者の方々がフェアトレードについての知識を得られること。知識があれば、取引を選択する際の判断基準が変わってきます」と池澤さん。

フェアトレード認証マーク取得のための長い道のり。その中で製造に関わるすべての人が改めて知識を学び、“確かな商品を作っている！”という共通の認識が生まれるようです。

シサム工房：池澤匡彦さん